

平成27年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

桃太郎チャレンジキャンプ中学年編

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

小学校中学年の子供たちが、自然の中で共に宿泊体験や自然体験活動をするをとおして、基本的な生活習慣を身に付け、自ら進んでチャレンジしようとする心情を育む。

2. 事業の概要

（1）期日

①日程 平成27年10月 3日(土)～ 4日(日) 1泊2日

②日程 平成27年10月24日(土)～25日(日) 1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

参加対象 小学校3・4年生

①日程 32人（応募総数116人）

②日程 32人（応募総数100人）

② 参加人数

①日程 28人

②日程 32人

（3）講師等

①日程 ボランティア14人

②日程 ボランティア 9人

（4）企画・運営のポイント

① 子供たちへの行動イメージとして次の3点を挙げてプログラムを構成した。

○吉備での様々な体験活動をとおして、チャレンジ精神を養う。

○身の回りのことは自分でできるようにする。

○仲間と協力することの大切さや仲間の良さに気付く。

② 同月2回の実施としたが、1回目の抽選で漏れたとしても2回目に募集ができるように日程を構成した。

③ 昨年度の成果を踏まえ、人数構成は2回とも8人×4グループとし、班付ボランティアを2人とした。

④ ボランティア対象の事前研修では、リスクマネジメントを中心として、本番を想定して活動をシミュレーションできるようにプログラムを構成した。

⑤ 本事業をボランティアの研修機会として位置づけ、今後ボランティアが企画・実施する活動の参考になるように企画・運営した。

⑥ フェイスブックに子供たちの活動の様子を紹介することにより、保護者には安心して見守っていただけるようにした。

- ⑦ 閉会式で班付リーダーから保護者に対して、子供の活躍や配慮した点を報告する時間を設け、その場で子供が決意表明をすることで意欲を高めた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

10月3日(土)・24日(土)		10月4日(日)・25日(日)	
9:00	受付	6:15 (6:45)	起床・洗面
9:30	開会式	7:15 (7:45)	朝のつどい
10:00	仲間づくりゲーム	7:30 (8:00)	朝食
12:00	昼食	8:30 (9:00)	活動準備
13:30	チャレンジハイキングⅠ	9:00 (9:30)	カッター活動
16:00	野外炊事	12:00 (12:30)	昼食
19:15	チャレンジハイキングⅡ	13:00 (13:30)	クラフト
20:45	入浴(シャワー)	15:00 (15:30)	アンケート
21:30	就寝準備	15:30 (16:00)	閉会式
22:00	就寝(キャンプ場)		

※()内の時間は、10月25日の日程

(2) 活動の状況(左列: ①日程、右列: ②日程)



【仲間づくりゲーム】



【仲間づくりゲーム】



【チャレンジハイキングⅠ】



【チャレンジハイキングⅠ】



【野外炊事】



【野外炊事】



【カッター活動】



【カッター活動】



【クラフト】



【クラフト】



【閉会式】



【閉会式】

4. 成果・課題

(1) 満足度

① 日程 満足：96% やや満足：4%

② 日程 満足：97% やや満足：3%

(2) 参加児童の保護者の声

- ① 親元を離れて子供たちで生活するというのは、とてもいいことだと思います。
今後もこのような事業を増やしていただけると助かります。

- ② 初めての野外炊事だったので心配したが、協力してできたようです。自分勝手な行動を最初の方に注意していただき、その後は周囲と協力して行動できるようになったようです。
- ③ 子供はテント泊がうれしらしく、楽しみにしていました。今ごろは小学校の山の学校でも宿泊が室内なので、良い体験だと思います。国立の場合、最後にスタッフから親に話をしてもらえるのがとてもありがたいです。あまりどこでもやってないのですばらしいことだと思います。
- ④ 2日間の写真を見て思ったことは、笑顔が見られたこと、一生懸命取り組んでいること、何より楽しそうに過ごしていたので安心しました。人見知りなところがあるのでいろんなことにチャレンジして、友達をたくさんつくってほしかったので、参加させていただきありがとうございました。
- ⑤ 以前から子供には、こういったキャンプをぜひさせたいと思っていました。本人も乗り気で、この度抽選に当たって参加させていただいて、本当にありがたかったです。日頃、家族では体験させてやれないことをできて、本人にはきっとすばらしい思い出ができたと思います。
- ⑥ はずかしがりなので心配しましたが、お友達もできて、いつもニコニコしていたと聞き、私もうれしかったです。すごく楽しかったようで、参加させて良かったと心から思いました。

(3) 成果

- ① 親元を離れた生活の中で、参加者が自分のことを自分でやりきろうとする姿が見られた。
- ② 活動を通して、参加者の自分自身へチャレンジしようとする行動や班の仲間と協力して活動しようとする協調性が現れた。
- ③ 参加希望者が定員の3倍を超えたことから、本事業の必要性と期待度を確認することができた。
- ④ 開会式前からのスタッフによる参加者への支援やフェイスブックでの活動の様子発信、閉会式前に活動の写真の映写放映、閉会式後にボランティアから活動中の様子の報告等を各家庭に行い、保護者の安心感と信頼感を得ることができた。
- ⑤ ボランティアが事前研修でリスクマネジメントについて学習することにより、参加者へのかかわり方や指導者として安全面を意識した支援の方法等に生かすことができた。

(4) 今後の課題

- ① 年度初めに施設ボランティアに日程を知らせ、人数の確保に努める。
- ② 長期宿泊研修実施に向けて、施設内外の資源を活用した活動プログラムを作成する。
- ③ 平成30年度に1週間以上の長期自然体験キャンプの完全実施に向けての段階的な拡張を行う。

担当：企画指導専門職 大下 展弘